

～プロフィール～

昭和63年1月相模原市生まれ。

- 相模原市立北相武台小学校 (現・もえぎ台小学校) 卒業
 - 相模原市立相武台中学校 卒業
 - 大学入学試験検定(大検) 合格
 - 早稲田大学理工学部 卒業
 - 早稲田大学大学院にて 博士号(工学)取得
 - 平成28年経済産業省 入省
 - ・製造産業局自動車課
 - ・通商政策局総務課
 - ・経済産業研究所
 - ・内閣府経済財政運営担当
- の職務を歴任し、令和3年4月同省を退職。

【現在】

地元で根差した政治家を志し、アルバイトで生計を立てながら、故郷相模原市を駆け巡る。地元の地理・歴史・文化・人を知り、学び続ける日々。

【趣味】

まち歩き、寺社巡り、水泳、読書

【座右の銘】報恩謝徳

【重んじていること】

常に自分を磨き続けること。
常に挑戦すること。

【家族構成】妻・長女(1歳)

むかわわい

務川 慧

活動レポート(号外)
～理念と政策～

市政に、

新風を。



理念

故郷が愛され続ける場所であるために！ 誠実に、ひたむきに、真剣に、働く！

政策

子どもを守る

私は母子家庭育ち。あの頃、地元で居場所があったからこそ、今がある。近所の商店、自治会・公民館のお祭り、寺社の年中行事、学童保育、、、コロナ禍で失われかけた、子どもの居場所を取り戻します。

- 学童保育・放課後等デイサービスの充実化。従事者の処遇改善。
- 子どもの居場所となる商店街や地域伝統行事・祭事の振興促進。
- 学校と地域の連携・協働体制の確立と推進。

子どもを育てる

貧乏が悔しかったので、私の場合は勉強が得意になるよう頑張りました。自分が自分らしく、好き・得意をみつけてハンデを乗り越える。そんなチャンスがあることをどんな子供たちにも知って貰い、提供します。

- 困難を乗り越え、挑戦意欲を育む学校教育を推進。
- 放課後も個性と特技を伸ばす機会に。低所得世帯の習い事支援を強化。
- 好きなことをもっと追及できる、部活動の地域移行制度を模索。

技術を培い、使いこなす

大学院では5年間の研究の末、博士論文を執筆。科学技術の振興を重視します。産業エリア・市街地・中山間地がバランスよく存在し、福祉需要も高い相模原市の特色を先端技術の研究開発に活かします。

- 産業特区を通じたドローン・自動運転・介護ロボットの研究開発の促進。
- 技術の地元への還元(無人運転コミュニティバス等の導入促進)。
- 再生可能エネルギーの要、蓄電池技術開発を市の強みに。

安全を保障する

ウクライナ戦争、中国の大国化などにより食糧、戦略物資は安易に海外に依存できない時代に突入。世界秩序の転換期。気候変動や巨大地震による大災害への備えが欠かせない時代。国家・国土・経済・食糧の安全保障、元官僚として大局観で市政を論じます。

- 有事における市内米軍基地の位置づけについて情報整理・共有。
- 半導体等戦略物資関連企業の誘致促進。
- 農業促進・支援策として耕作放棄地対策、人材育成の強化。
- 河川堤防、避難経路として機能する道路など災害対策インフラ整備を推進。
- 地元で働く人の賃上げを推進。まずは介護士・保育士の処遇改善。
- IT技術関連事業をはじめ若手起業家を後押し。
- 麻溝台・新磯野土地区画整理事業の推進で新規転入者を呼び込み。

若者を呼び込む

同級生の多くは市外へ転出。買い物するにも町田・座間・海老名。仕事は東京・横浜。若者減りゆく故郷の現状に危機感を持っています。

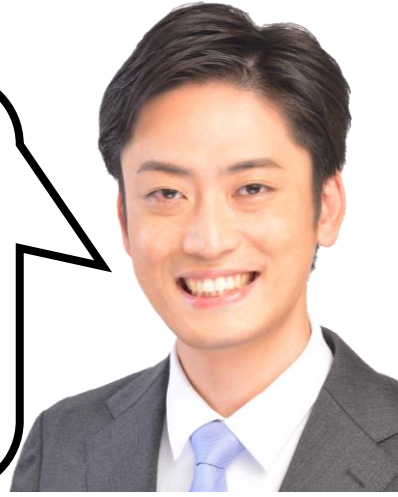
後援会事務所 **むかわわい**
南区新磯野1-20-9

相模原市議会議員選挙の投票日は **4/9(日)**



むかわけい 活動レポート(令和5年第3号)

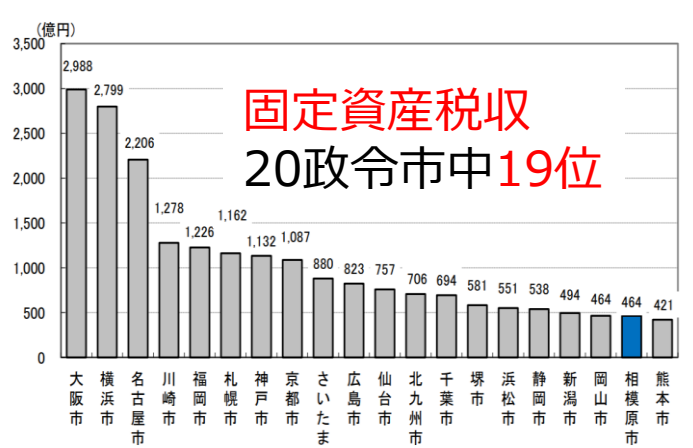
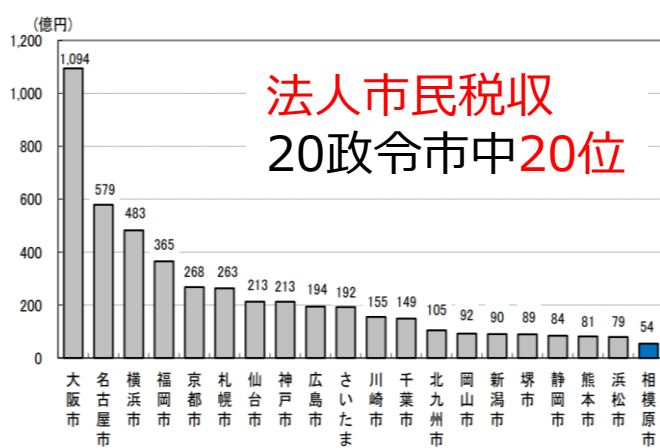
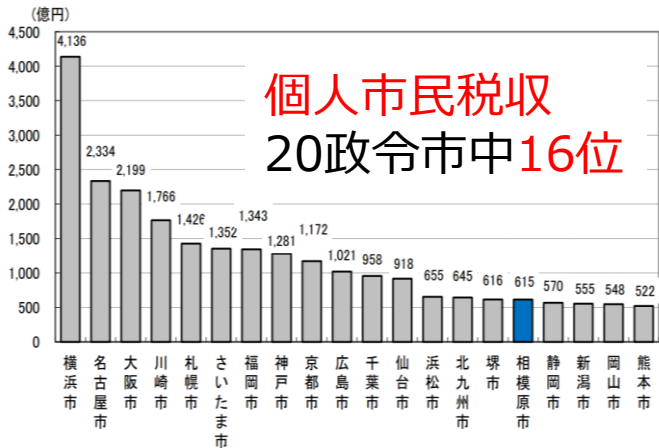
～データで読み解く相模原市～



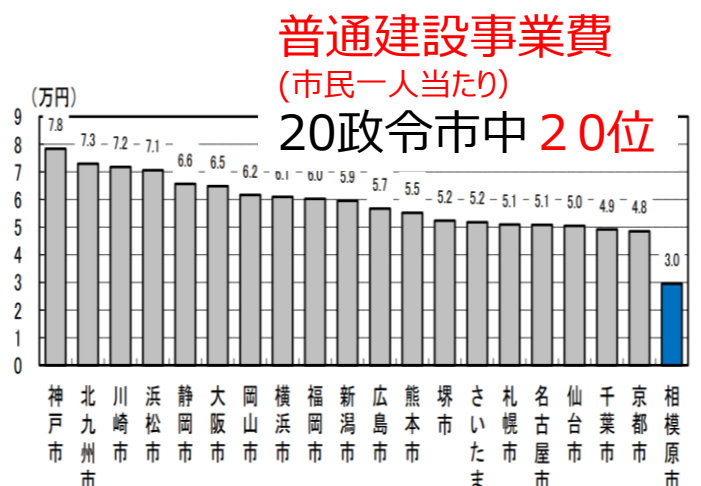
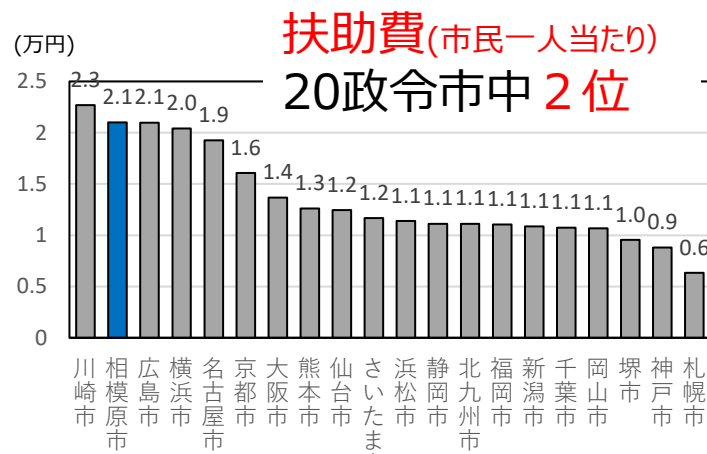
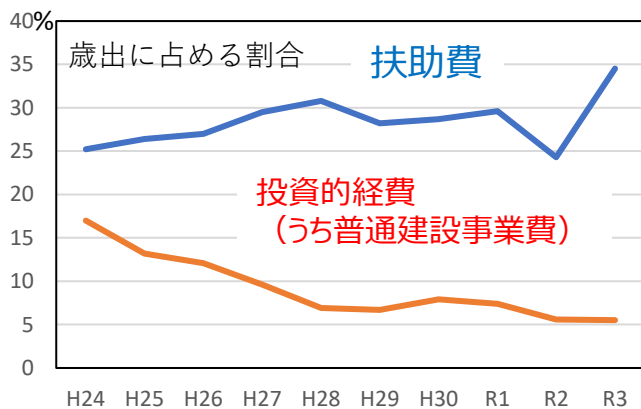
皆さん、こんにちは！今号では市の決算関係データを一部ご紹介します。私たちのまち相模原。私たちが支払った税金とその使い道は？他市との比較は？どんな事業に力をいれているのか？財政の状況は？

“なんとなくのイメージ”ではなく、データを眺め、市の特色をおさらいすると、「相模原市の現状と今後あるべき姿」を一人一人が思い描きやすくなる。そんな思いで今号を綴ってみました。是非ご一読ください！

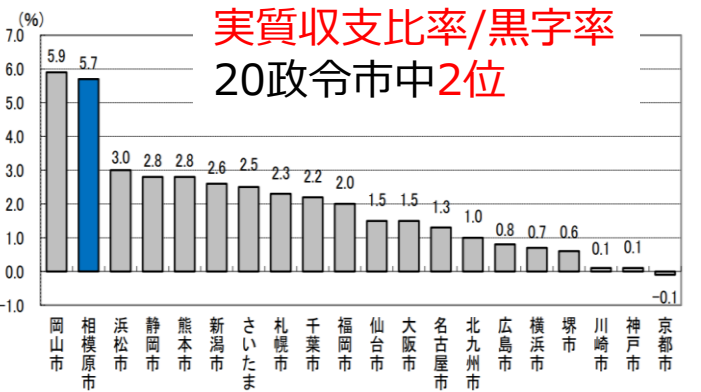
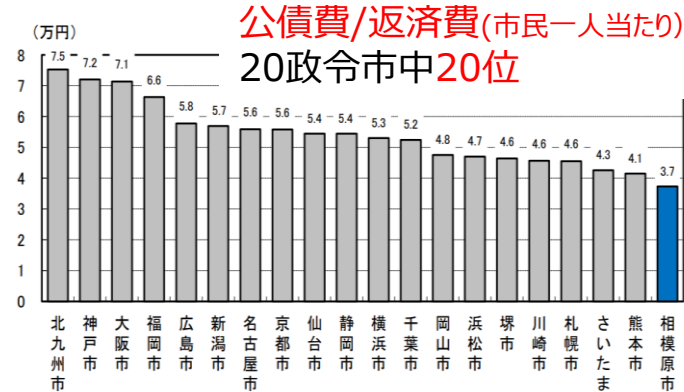
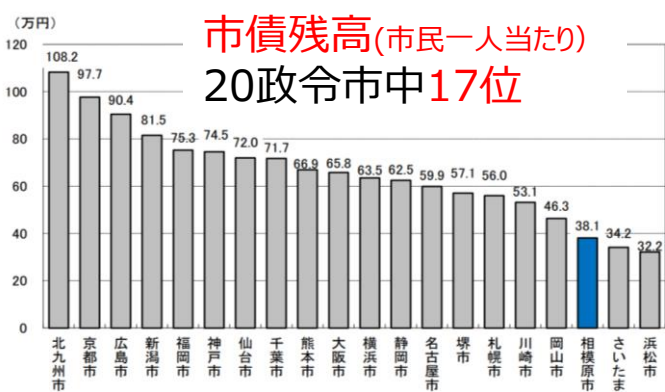
歳入規模で他の政令市と比べて見劣りしてしまう、われらが相模原市。特に、法人市民税収の低さは顕著です。少子高齢化、共働き世帯の増加、子育て支援の充実化、大災害への備え、、、今後、多種多様な行政サービス需要へ対応していくためには、税金を高めていく他ありません。新しい人に来てもらう。企業を誘致する。これらを最優先とする市政運営が求められます。



伸び悩む税金。限られた一般財源。他方で、増大する行政サービス需要。われらが相模原市は扶助費(生活困窮に陥った方、高齢者、子ども、障害をお持ちの方への支援)の手厚さで、政令市中トップクラスの水準となっています。その代わりに、投資的経費/普通建設事業(道路、橋梁、学校、公園などの改良事業や新增設)は政令市中最低水準となっています。



歳入規模が小さい中で、政令市トップクラスの社会保障を実現してきたわれらが相模原市。投資はできるだけ控えたため、負債残高は政令市最小クラス(市民一人あたり38.1万円)。市民一人当たりの年間返済費は3.7万円と最小。実質収支比率は群を抜く5.7%(101億円の黒字)で、しっかりと黒字決算を出しています。



(出所)相模原市決算資料(令和3年度、令和2年度分)

将来は社会保障費用が更に必要となってくるでしょう。災害への備えも必要。行政費用は高みます。今後も我々は現状の財政構造を維持したまま、更なる税金を確保することができるのでしょうか。どのような選択が必要か。私も、皆さまと共に考え、議論を交わしてまいります。